

おおさか生涯スポーツコンベンション基調講演
(生涯スポーツ指導者養成講習会)

勇気のなかに

2002年2月2日(土) 大阪国際交流センター

講師：大八木 淳史氏 (元 全日本代表ラグビー選手)



「自由に振る舞う子が少なくなってきたし、わんぱく坊主も消えた。こうした現象をどう思いますか?」と最近よく聞かれる。

でも、昔も今もこれからも、子どもの本質そのものは何もかわらず、その本質を評価する周りの大人が変わってしまっただけなのではないだろうか。今こそ大人自身が子どもに対する考え方、接し方を見直すときだと思う。そして、大人と子どもとのコミュニケーションを促進するきっかけとして、スポーツをもっと深く考えてみる必要があるだろう。

携帯電話やEメールなど新しいコミュニケーションツールがますます発達してきている現在、スポーツは唯一人間同士が生身の身体と身体でぶつかり合えるコミュニケーションのような気がする。ラグビーはその典型と言えるだろう。

わたしがラグビーを続けてこれたのは、周りの大人の方が「子どもがすることだからのびのびと自由にさせてやろう。」というまなざしで見守ってくれていたからだと今になって気づく。大人は子どもがすることに対しては、管理しすぎるわけでもなく自由すぎるわけでもなく「まあ、ええか」ぐらいがちょうどいいのではないだろうか。

指導者の方々の中には、「勝利至上主義」という言葉に頭を悩ませている方も多だろう。この言葉に対する考え方は十人十色だと思うし、

それぞれのチームによって方針が異なるから一概に結論づけることはできない。だが、指導者はまず「勝利至上主義」を考える前に子ども達にルールやマナーを守らせることによってプレーそのものを楽しませ、さらにそれを見る側にも感動を与えるような環境を用意してあげることが必要だと思う。スポーツは、本来遊びだから、指導者が子ども達をどれだけびのびとプレーさせられるか、この部分が重要で、そのことを理解した新しい指導者が今後もっと出てきて欲しい。

わたしは、ラグビーというスポーツをずっと追いかけてきた。その間、ラグビーはわたしに数多くの「出会い」と「勇気」を与え続けてきてくれた。この経験を次代の子ども達に伝えていきたいし、子ども達にもそんなかけがえのないスポーツに出会って欲しいと願っている。

講師 大八木 淳史氏



主な経歴

- 1961年 京都市生まれ
- 1979年 高校ラグビー日本代表としてイングランドに遠征
- 1980年 同志社大学入学
大学時代は4度の大学日本一に輝く
- 1984年 ニュージーランドに留学
- 1985年 (株)神戸製鋼所に入社
- 1995年 日本選手権V7を達成、黄金時代を築く
日本代表キャップ保持数 30

現在

コベルコピーアールセンター CRプロジェクト担当部長、(財)日本ラグビーフットボール協会普及育成委員としてタグ・ラグビーの普及や講演などで全国各地をまわる一方で、テレビ・ラジオのレギュラー番組に多数出演。
ラグビーを通して「出会い」と「勇気」の大切さを学んだ経験から、モットーは「出会いに感謝」。

主な著書

『勇気のなかに』アリス館 『友よ』ダイヤモンド社
『夢を活かす! 熱血師弟の実践的子育て』講談社(山口良治氏との共著)など

【シンポジウム】 基調講演につづいてシンポジウムでは、「地域に根ざしたスポーツ環境づくり」をテーマに活発な議論が交わされました。

コーディネーター

川西 正志氏 【鹿屋体育大学生涯スポーツ実践センター長・教授】

シンポジスト

- 岡田 邦夫氏 【大阪ガス(株)健康管理センター所長】
- 田辺 陽子氏 【(株)ミキハウス柔道部コーチ、バルセロナ・アトランタオリンピック柔道銀メダリスト】
- 中野眞理子氏 【マリコオフィス代表、モントリオールオリンピックバレーボール金メダリスト】
- 前田 嘉昭氏 【大阪高等学校体育連盟理事長】
- 間野 義之氏 【(株)三菱総合研究所社会システム研究本部医療福祉システム部主任研究員】

